

●発行：大津市市民活動センター（指定管理者：NPO 法人 HCC グループ） 〒520-0047 大津市浜大津 4-1-1 明日都浜大津 1 階
開館時間：9 時～21 時（カウンター業務は月～土の 9 時～19 時）
TEL：077-527-8661 / FAX：077-527-8662 HP：<http://movementotsu.com> / mail：moveinfo@movementotsu.com



将来の 「相対的貧困」の 要因はいろいろ・ その対策は



字が書けない けど、さぼってなんかいない



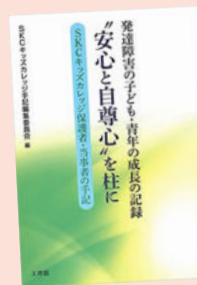
SKC キッズカレッジ（前滋賀大キッズカレッジ）

発達障害、不登校・登校拒否、学力不振等の児童とその家族、教員、市民に対して、大学の研究成果を活かしながら子育て全般を支援している団体です。講座や書籍などを通じて、子育ての啓発にも取り組まれています。

学習障がいの子どもは、「どうしてできないの?」「もっと頑張らない」と言われることが多く、自認・回避・自分への冷やかしの反応を無意識にすることがあるそうです。まずは学習より安心と自尊心を確立することが大切だそうです。

指導は一对一を基本とし、「教えない」「言葉では説明しない」「間違いを指摘しない」などで、自分で気づくことを待つことが重要とのことです。そのうえで、粘土や積み木を使う直接的な学習援助をされています。

「例えばタブレットの使用等ができると救われる子は多いかもしれない」とお聞きしました。私自身この取材をきっかけに、ディスレシヤ（難読症）など、特性に合う学習方法の習得により子ども達の生きづらさや将来の貧困解消につながると思いました。



←「安心と自尊心」を柱に 発達障害の子ども・青年の成長の記録 SKCキッズカレッジ保護者・当事者の手記」
著書：SKCキッズカレッジ手記編集委員会（編）
出版社：文理閣

<ボランティア募集>

活動時間：火～木の午後（2時～5時）、土曜 午前・午後
最低、月2回の学習室の一角（1時間）の指導に参加できることが条件です。学歴、資格などは問いません。
1日5時間×2日間の研修を受講したあと希望に応じて活動していただきます。
詳細は電話で 077-511-9589
申し込み随時（申し込みがあり次第、個別に説明会を開き研修日程を決めます）



外国にルーツを持つ・ 日本語理解が難しい



日和 - 寺子屋 大津

毎土曜、瀬田公民館で日和さんは「学習が困難な外国籍の方の為の学習会」を開いています。スタッフのほとんどが学生ボランティアです。子どもたちとも仲が良く、部屋に入ってきた子はニコニコしながら最近あったことなど話し始めます。

支援は小学生から高校生までと幅が広いので、一人一人学習する内容は様々です。小学生には部屋の時計や窓から見える物を指差しながら単語を教えたり中学二年生には「マンガ枕草子」を見ながら、身振り手振りで一緒に古典の勉強をしています。子どもたちは、学校でわからなかったこと、詳しく聞きたかったことなど真剣に教わりながらも、温かい空気に包まれていました。コロナ以前は「各国のお料理教室」「BBQ」「忘年会」など、保護者も一緒に楽しめる企画もあったそうです。

今回取材して、日本で暮らす子どもたちの困りごとに私も向き合っていきたいと思いました。

『外国にルーツを持つ』とは?

- ・外国籍の子ども
- ・日本国籍(2重国籍)の子ども
- ・無国籍の子ども
- ・外国出身の保護者と共に暮らす子ども



国籍にかかわらず
父母の一方、または
そのどちらかが
外国出身者である子どものことです



<参加するには・ボランティア募集>
毎週土曜日、瀬田公民館2階の作業室で開催
ボランティアスタッフいつでも募集。
英語ができなくても、子どもたちと一緒に遊んだり
お話しするだけでもOKです。
活動に興味をもった方はお気軽にご連絡ください。
Email: hiyori_o2@yahoo.co.jp

学校に行けない・行きたくない

——学校以外の場所で学び育つ子どもと
親のあそび & おしゃべりの場



びわ湖フリーわいわい（通称・びわフリ）

びわフリは、不登校・行き渋りで悩んでいる親子を対象にした集いの場です。参加した子どもたちは自由に好きなことをして過ごします。保護者は子どもと一緒に遊んだり、親同士悩みを打ち明けあったり…。

世話人の大町さんは、「外の世界に出た時にギャップで挫折しないように、ちょっとずつ家族以外の他人と関わって、『(子ども自身が)大丈夫』と思えるようになってほしい。びわフリをそのステップとして使ってもらえたら」と話します。

いざ子どもが不登校になったら、親自身も戸惑うはず。そんな時、びわフリのような気軽に集えて悩みを打ち明けられる場所の存在は、保護者にとっても心の拠り所になるはず。

大町さんは、不登校児の親の交流会やフリースクール、子どもの居場所などの情報ハンドブックの発行にも関わりました。「不安を抱えている人たちが孤立しない」ためにも、こういう情報の共有も大切だと改めて感じました。



<参加するには>
月に一度、大津市内の公共施設で土日祝不定期開催。
詳細はホームページ (<https://www.biwafree.com>) でご確認ください。

世話人：大町航也・千恵
問い合わせ biwafree@gmail.com



将来の「相対的貧困」 を防ぐために



K：大津市内で困りごとを抱えた子どもの支援している団体さん取材してみようでしたか？

M：「日和」さんでは、外国籍の子どもたちが楽しめるように学ぶ場づくりへの工夫を感じました。

H：「びわフリ」さんもそうです！とても楽しく遊んでいた、いい表情で過ごせていましたよ。

K：子どもが来やすいようにって配慮はどこの団体にも感じられましたよね。

M：外国籍の子どもの就学状況（図1）を見ると、5人に1人は就学していない可能性があって、支援が行き届いていないのではと思いました。

H：不登校によって「みんながしてる経験ができない」に気づきました。学校以外のフリースクールは習い事と比べても金銭的にも割高。

K：小学校1年生のうち読み書きが困難な子どもが1割ほど居ることも衝撃的でした。周りがちゃんと気づいてあげて、発達や特性に合わせた支援をすることの大事さを痛感しました。

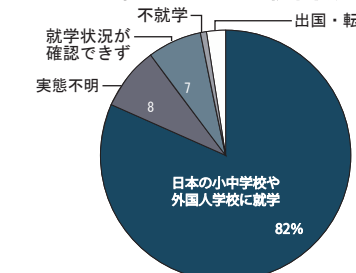
M：外国籍の子は母国語以外で学ぶんだから大変・・・障がいがなくても支援が当然必要ですね。

K：「低学歴・中退で働ける場所は少ない」と思うと、学習や経験の格差の解消はすごく大事ですね。それなのに教育に対する公的支出*では、OECDの平均が4.1%なのに、日本は2.9%と加盟国の中で最低です。

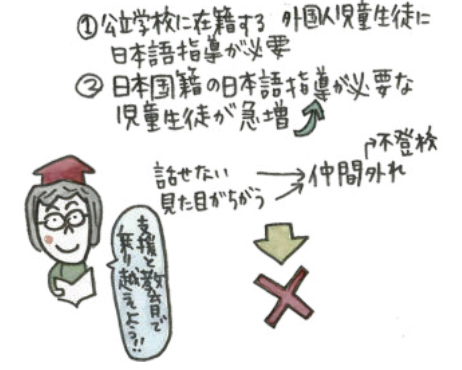
MHK：私たちも、地域では今回取材した団体を応援したり協力するということがありますが、団体の善意に頼ってしまっている社会だということ意識して、政策や制度を改善していくことも必要になってきますね。

*「GDP（国内総生産）に占める初等教育から高等教育までの公財政支出（2017）」

図1 外国人の子どもの就学状況



(2019年・文部科学省
グラフ引用：日本経済新聞)



～関連冊子～



↑8言語の情報誌：みみタロウ
発行：公益財団法人滋賀県国際協会



↑「学校に行きづらい子どもたちのための育ちと学びのサポートブック 大津エリア」
発行：社会福祉法人大津市社会福祉協議会